

徳

私の母は、三人の子供たちに、「徳」ということについて、よく話したものだ。いいかね。人間の一生には前半と後半があって、前半の運命は親の徳によってきまらうらしいよ。つまり私たち親が、よい行いをして徳を積みおけば、お前たちは幸せな前半を送ることができるわけだ。しかし、後半までは親の徳もおよばない。人生の後半は、お前たち本人一人ひとりだが、いかに徳を積みかかかっていられるんだよ。お前たちが徳を積みめば、自分が幸せになるだけではなく、次の世代の子供の前半もよくなるのさ。

この母の話も、小さいころはいいかげんに聞き流していたが、今までの私の人生が幸運にも恵まれ無事に暮らせたのは、さては親のお陰だったのかと、最近になって気がつきはじめたのだ。

そして、いま、後半のまったただ中にある自分を考えるとき、この「徳」の持つ意味は大きい。

「徳」とは、品性を向上させるために習得するべきもので、正しい行いを積み、他人を助け、みずからの品格を高めることである。

今の自分を正直に反省してみると、どうも、パフォーマンス時代を反映してか、「目立とう」と意識がどこにかあって自分をたくみに演出し内容以上の表現で利益を得ようとする傾向が強いように思える。「徳」ではなく、「得」をしようとしているのだ。これでは、とても品格を高めているとはいえず、はずかしい。

自分の人生の後半は、もはや親も面倒をみてくれない。自力あるのみである。人生を全うするためにも、また、後を継ぐ子供たちの前半の幸せのためにも、人目のつかないところで徳を積みむ心が必要なのだ。いま、真剣に考えている。

だれも見ていないと思っても、神様は必ずどこかで、じつとご覧になっている。だからこわい。「怖（おそ）れ」がなおざりにされる世の中では、本当の徳はなかなか積めないのではなかるうか。

(山川 静夫「元NHKチーフアナウンサー」
中日新聞より抜粋)

先日の研修会で、講師の先生より右の新聞コラム記事を頂き、私もいつのまにか人生の後半を過ごしているな」と思いながら、自分を振り返りました。

私の両親は、二人ともそれぞれ、父は高校の、母は小学校の教師でした。小さい時より...

「倉光先生の息子さん？」

と会う方会う方に言われ、何と小学校時代は、私が生徒で通う小学校に母も勤めていました。(しかも同じ学年の受け持ち(驚!)。正直、なんかいつも見られていたように、のびのびでできないし、友人からは、何かにつけ冷やかされたりして、嫌でしかたがなかった時期もありましたが、故郷で「くすりのキュート」を開業させていただき、店に来られるいろんな知らない多くの方々より

「お父さんには、お世話になったです！」
「お母さんには、よく叱られました！」

とか、人によっては

「私が今こうやって頑張っているのは、倉光先生のお陰です」

とか言っていた。事がたびたびあります。まさに、この文に書かれているように、両親の「徳」と信用のお陰でやって来たんだと実感します！これからは、いたいた両親の徳に、少しでも報いるために親孝行をしながら、少しずつでも私自身「徳」を積んで、後に続く子供たちの前半の人生の幸せに、少しでもプラスになるように「徳」のバトンを意識してつなげていかなければと思います。

P.S.
店もきつと誰かが継いで存在していく為には、くすりのキュート玉名店・植木店自体が、皆様より「先代に、よく励まされたんです！」「先代に、元気をもらいました」などと言っていた。できるような「徳」をしつかり日頃から積んでいくような店であることが条件になるんだと思います。

ちなみに、私(倉光)は来年50歳！くすりのキュートは20歳(ハタチ)になります！

